

駒沢中学校 英語少人数・習熟度別指導

世田谷区立駒沢中学校	主幹教諭	稲葉高広
	主任教諭	片桐雄樹
	主任教諭	黒田由紀乃
	教諭	森川俊輔

平成27年8月27・28日
於 国立オリンピックセンター

発表内容

少人数・習熟度別指導

1. プロセスとメリット

2. 校内での推進体制のあり方

1. プロセスとメリット



駒沢中学校の少人数・習熟度別指導

発展コース

発展的な課題に取り組む

自校作成問題に対応

向上コース

活用の能力

入試問題全体

定着コース

基礎・基本

入試基礎レベル

少人数・習熟度別指導について (保護者通知)

趣旨

時期

コースの名称・方針

対象教科

平成27年4月11日

保護者様

駒の字ひま 世田谷区立駒が中学校
校長 加藤 敏夫
教務主任 稲葉 高広

少人数授業についてのお知らせ

参議の給、指導方針はますます丁寧のこととお喜び申し上げます。
さて、本年度は下記のように少人数授業を実施します。趣旨等をご理解いただき、ご支援いただきますよう、お願いいたします。

記

1 趣 旨
中学校入学時から少人数で授業を進めることにより、個別指導やグループ学習の機会が増えることにより、きめ細かな指導が実現できるようになります。このことに基づいて、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、学習内容についての理解を深め、基礎的な思考力・表現力等を身に付け、学習意欲や実践力の向上を図ります。また、授業や学習活動を通して、思考力や表現力等を身に付け、学習意欲や実践力を高め、学習する態度を育成します。

2 時 期
平成27年4月から平成28年3月末まで

3 対象学年と教科、担任
○対象学年：全学年・全学科・全クラスです。
(1) 国語 習熟の程度や生徒の希望により、2学級が3つのコースに分かれます。
○定数・向上コース(2)、発展コース(1)
○使用教室：各教室、国語室
○担当教員：藤本 佳子(国語主任)、小西 実子、武井 明希子
(2) 数学 習熟の程度や生徒の希望により、2学級が3つのコースに分かれます。
○定数・向上コース(1)、向上コース(1)、発展コース(1)
○使用教室：各教室、数学室
(3) 理科 習熟の程度や生徒の希望により、1年生成1学級が2つのコースに、2・3年生は2学級が3つのコースに分かれます。
○定数・向上コース(1~2)、発展コース(1)
○使用教室：各教室、第1理科室、第2理科室
○担当教員：吉田 孝幸(理科主任)、市川 淳子、栗山 幸夫、松本 さおり、横山 茂樹
(4) 英語 習熟の程度や生徒の希望により、2学級が3つのコースに分かれます。
○定数・向上コース(1)、向上コース(1)、発展コース(1)
○使用教室：各教室、英語室
○担当教員：栗田 由紀乃(英語主任)、稲葉 高広、片桐 雄樹、森川 俊輔

保護者様へ
校長 加藤 敏夫
教務主任 稲葉 高広

4 コースの名称と方針

定数コース	知識・技能を身に付ける学習を繰り返し行うとともに、思考力・判断力・表現力等を伸ばす学習を行い、確かな学力の定着を目指す。 都立高校の入試問題を基礎的・基本的な内容を正確に解く力を身に付ける。
向上コース	知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力等の育成を図る学習をバランスよく行い、学力を向上を目指す。 都立高校の入試問題を全体をコンスタントに解く力を身に付ける。
発展コース	発展的な知識・技能を習得し、それらを活用する学習を行い、論理的な思考力・正確な判断力・分析力や深い表現力等の育成を目指す。 都立高校(進学重点校等)の自校作成問題に同じでできる力を身に付ける。

5 その他
(1) 指導内容は、世田谷区教育委員、教科書、教材等の内容をどのコースも同様に取り扱い、履修内容は異なります。指導方法は、習熟の程度に応じた工夫があります。
(2) 担当教員が年度途中でローテーションする場合があります。
(3) 生徒の習熟度や希望の転入により、年度途中でコースが変更になる場合があります。
(4) 時間割の編成状況などにより、計画が一部変更になる場合があります。単位等によっては、授業別や課題別等で編成する場合もありますので、ご了承ください。
(5) 定数表は、全コースともに同じ内容の授業を行います。知識・理解やそれらを活用した思考力、表現力等について、それぞれ目標に対する到達度を各コースで設定します。
(6) 評価は、観点別学習状況による到達度に応じて行います。コースによる別はありません。

少人数・習熟度別指導の編成

少人数：25名以下

習熟度別： **定着** **向上** **発展** の3コースが基本※

※生徒の実態に応じて2コース編成も可

2コース編成の場合： **定着** + **向上** と **発展**

または

定着 と **向上** + **発展**

少人数・習熟度別指導の編成

3 コース編成例



ボックス型

全コース同人数
(25名程度)



ロケット型

発展コースが
より少人数



逆ロケット型

定着コースが
より少人数

少人数・習熟度別指導の編成

生徒の実態に応じた2コース編成例



ピラミッド型

定着と向上を合わせる



逆ピラミッド型

向上と発展を合わせる

少人数・習熟度別指導の編成

2 学級 3 展開が基本

学年の学級数に応じて臨機応変に対応

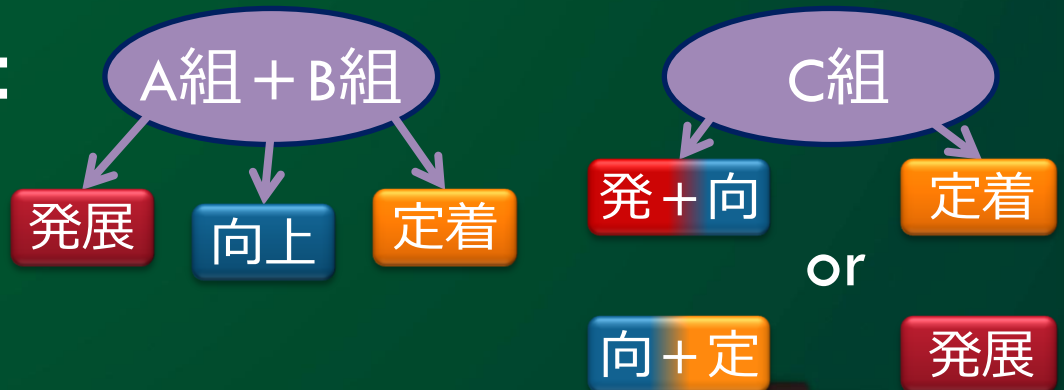
学年 4 学級の例：

6 展開



学年 3 学級の例：

5 展開



習熟度別にコースを編成する際の 判断資料

全学年

- ✓ 区の学力調査
 - ✓ 都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」
 - ✓ 全国学力・学習状況調査
 - ✓ 評価・評定
-
- ✓ 年度当初は名簿順に分ける
 - ✓ 5月から習熟度別指導

コース変更について

コース変更は学期に一度を目安に

- ✓ 「指定されたコースが自分に合わない」生徒
→もっとも力を伸ばせるコースを話し合う



Aさんの例

発展コース



授業についていけない・・・



教科部会で検討



向上コース



順調に成績を伸ばす



発展コース

授業について

学習指導案・教材（自主教材・ハンドアウトなど）

- ✓ 各学年の主となる教員が準備
- ✓ $+\alpha$ でハンドアウトを作成する場合は全コース分用意



進度調整

- ✓ 定着コースの進度に合わせる

定期考査

- ✓ 未習事項の出題がないように調整
- ✓ 定着コースの内容を主とした問題

コース別の工夫

- ✓ 学習指導案・教材は同じものを使用する
- ✓ 文法事項の説明や題材へのアプローチの仕方、教員の英語使用量・音読の回数などに変化

発展

✓ 派生語やイディオムなどの習得

向上

✓ 基礎・基本に加えた実践的な英語

定着

✓ 基礎・基本の定着

駒沢中学校の実践



駒沢中学校の実践例

1 年



✓ **発展** が 1 展開

✓ **定着+向上** が 2 展開

✓ 全展開同人数（25名程度）



第1学年 ピラミッド型



基礎・基本の徹底のための
「定着・向上コース」

駒沢中学校の実践例

2年

発展

向上

3年

定着

✓ 全コース1展開ずつ

✓ **定着** をより少人数に

発展 上限25名

向上 上限25名

定着 上限20名



3年 定着コース

第2・3学年 逆ロケット型

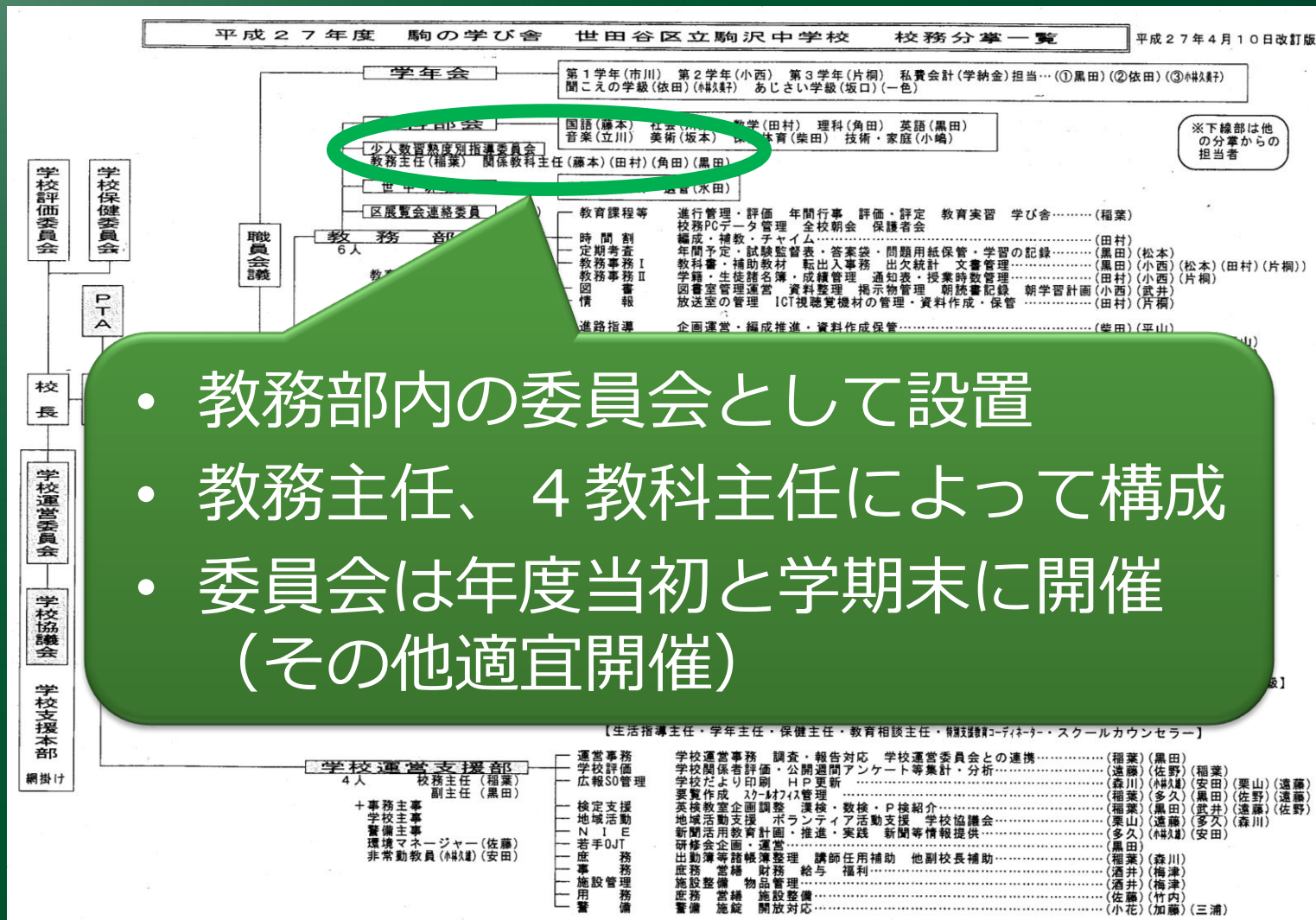


定着コースを少人数に
→個別指導・反復学習が充実

2. 校内での推進体制のあり方



少人数・習熟度別指導推進委員会



- ・ 教務部内の委員会として設置
- ・ 教務主任、4 教科主任によって構成
- ・ 委員会は年度当初と学期末に開催
(その他適宜開催)

少人数・習熟度別指導推進委員会

1年

国語

数学

理科

英語

2年

教務部が各教科から聞き取り
(コース数・編成方法・目標)



学校としての方針を提案

3年

1学年		第1学年	
発展	国語	発展	理科
標準的な学習の理解し、国語の果理的に考え、発展的に学習する。	標準的な学習の理解し、国語の果理的に考え、発展的に学習する。	標準的な学習の理解し、国語の果理的に考え、発展的に学習する。	標準的な学習の理解し、国語の果理的に考え、発展的に学習する。
定期考査や授業評価をもとに習熟度80%未満	定期考査や授業評価をもとに習熟度80%未満	定期考査や授業評価をもとに習熟度50%以上80%未満	定期考査や授業評価をもとに習熟度50%以上80%未満
向上	内容や事柄をおおむね理解し、場面や目的に応じて適切に表現したり、討論や繰り返し学習などを通して、基礎基本の定着を図ったりする。	標準的な問題に取り組み、自分の考え方を筋道を立てて説明できるようにする。また、ICTを活用して視覚的効果による基礎基本の定着を図る。	標準的な問題に取り組み、自分の考え方を筋道を立てて説明できるようにする。
定着	内容や事柄をおおむね理解し、場面や目的に応じて適切に表現したり、討論や繰り返し学習などを通して、基礎基本の定着を図ったりする。	標準的な問題に取り組み、自分の考え方を筋道を立てて説明できるようにする。また、ICTを活用して視覚的効果による基礎基本の定着を図る。	標準的な問題に取り組み、自分の考え方を筋道を立てて説明できるようにする。
2学年		第2学年	
発展	国語	発展	英語
標準的な学習の理解し、国語の果理的に考え、発展的に学習する。	標準的な学習の理解し、国語の果理的に考え、発展的に学習する。	標準的な学習の理解し、国語の果理的に考え、発展的に学習する。	標準的な学習の理解し、国語の果理的に考え、発展的に学習する。
定期考査や授業評価をもとに習熟度80%未満	定期考査や授業評価をもとに習熟度80%未満	定期考査や授業評価をもとに習熟度50%以上80%未満	定期考査や授業評価をもとに習熟度50%以上80%未満
向上	内容や事柄をおおむね理解し、場面や目的に応じて適切に表現したり、討論や繰り返し学習などを通して、基礎基本の定着を図ったりする。	標準的な問題に取り組み、自分の考え方を筋道を立てて説明できるようにする。また、ICTを活用して視覚的効果による基礎基本の定着を図る。	標準的な問題に取り組み、自分の考え方を筋道を立てて説明できるようにする。
定着	内容や事柄をおおむね理解し、場面や目的に応じて適切に表現したり、討論や繰り返し学習などを通して、基礎基本の定着を図ったりする。	標準的な問題に取り組み、自分の考え方を筋道を立てて説明できるようにする。また、ICTを活用して視覚的効果による基礎基本の定着を図る。	標準的な問題に取り組み、自分の考え方を筋道を立てて説明できるようにする。
3学年		第3学年	
発展	国語	発展	英語
標準的な学習の理解し、国語の果理的に考え、発展的に学習する。	標準的な学習の理解し、国語の果理的に考え、発展的に学習する。	標準的な学習の理解し、国語の果理的に考え、発展的に学習する。	標準的な学習の理解し、国語の果理的に考え、発展的に学習する。
定期考査や授業評価をもとに習熟度80%未満	定期考査や授業評価をもとに習熟度80%未満	定期考査や授業評価をもとに習熟度50%以上80%未満	定期考査や授業評価をもとに習熟度50%以上80%未満
向上	内容や事柄をおおむね理解し、場面や目的に応じて適切に表現したり、討論や繰り返し学習などを通して、基礎基本の定着を図ったりする。	標準的な問題に取り組み、自分の考え方を筋道を立てて説明できるようにする。また、ICTを活用して視覚的効果による基礎基本の定着を図る。	標準的な問題に取り組み、自分の考え方を筋道を立てて説明できるようにする。
定着	内容や事柄をおおむね理解し、場面や目的に応じて適切に表現したり、討論や繰り返し学習などを通して、基礎基本の定着を図ったりする。	標準的な問題に取り組み、自分の考え方を筋道を立てて説明できるようにする。また、ICTを活用して視覚的効果による基礎基本の定着を図る。	標準的な問題に取り組み、自分の考え方を筋道を立てて説明できるようにする。

少人数・習熟度別年間指導計画

平成27年度 英語 第2学年 少人数・習熟度別授業実施計画表

駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校

第2学年
4月

発展

向上

定着

- ✓ 不規則動詞の過去形
50語以上
- ✓ 日記を毎週3回以上

✓ 不規則動詞の過去形
30 語程度
✓ 日記を毎週 1 回

- ✓ 不規則動詞の過去形 50 語程度
- ✓ 日記を毎週 2 回以上

少人数・習熟度別年間指導計画

CAN-DO
リスト

生徒が身につけるべき能力を明確化

生徒の目標達成状況



指導・評価の改善

さらに各学年の主となる教員が少人数・習熟度別年間指導計画を作成



ご清聴ありがとうございました